

(別添 1)

調査研究報告書のサマリー

令和 5 年度老人保健健康増進等事業

＜英国等諸外国における支援を必要とする住民と地域の多様な主体との調整を行う職種との国際比較を通じた生活支援コーディネーターの活動基盤強化に関する調査研究＞

＜一般財団法人医療経済研究・社会保険福祉協会＞

本研究は、イギリスの社会的処方に関連するリンクワーカー（LW）、オランダの福祉処方に関連するウェルフェアコーチ（WC）を調査対象とし、背景にある理念・価値、政策、制度、具体的な役割・業務内容、地域での活動などを明らかにすることによって、日本の生活支援コーディネーターの基盤強化に資する示唆を得ることを目的とした。

1. 事業目的の明確化「マッチング機能の強化」

SC は、制度開始から経過した時間を考えると、「ニーズと取組のマッチング」という役割の強化を進めるべきである。

英国における LW 等の活動が、目の前にあるニーズや課題に対応する活動を行っているように、支援が必要な対象者に働きかける「ニーズと取組のマッチング」という活動こそが事業の目的であるという認識を強く持つ必要がある。

2. 生活支援体制整備事業におけるゲートキーパーは地域包括支援センター

LW は、ゲートキーパーであるかかりつけ医から対象者を紹介され、その人にマッチできる資源について検討した結果、資源がなければ探す、または作るという活動を行っている。

日本の SC 活動は資源の創出などの準備活動は行っているが、前述のマッチングを行う場合に対象者（ニーズ）を提供するゲートキーパーが明確ではない。日本においてニーズと地域資源をマッチングさせる際、地域包括支援センターがゲートキーパーとなり、SC が個別支援を行うケアマネジャー等を支援するという形が「ニーズと取組をマッチング」の基本形であると考えられる。

3. サービス提供主義からの脱却

生活支援体制整備事業で成果を上げるためには、サービスを作る、またはサービスを提供することが中心の事業から脱却する必要がある。個別のニーズや課題の解決に向けて、その人がどのようなパーソナリティを持ち、何ができる人かを把握し、そうした個人因子や生活を取り囲む環境因子をしっかりとアセスメントする必要がある。

そのうえで、その人に適応した多様な地域資源をマッチングして、本人のウェルビーイングの向上を目指す支援を SC のみならず地域の多職種全員が目指す体制の構築を目指すべきで、それが地域包括ケアシステムの構築につながる。

4. SC の働きやすさの確保と支援組織の創出等

SC に対して、支援の現場の近いところで実績を重ねた上司や先輩による活動への助言、評価、あるいは業務上のストレスを取り除く支援が必要である。またこうして教育された新人活動者が成功体験を積み重ね、仕事にやりがいを感じられる体制が必要である。さらには人材の確保や採用方法についても検討する必要がある。

英国で社会的処方を強化する上では、LW への研修のみならず、GP や医学生などへの教育、理解が不可欠とされていた。地域包括支援センターやケアマネジャー研修のなかで生活支援体制整備事業に関する内容を強化することが必要であり、同様に委託者である自治体が生活支援体制整備事業の効果的な実施について理解を深めるための場が必要である。

SC の支援組織の創出と SC 活動の Web 等でのプラットフォームの構築が必要である。

